施工説明書

腰掛式便器

※品番は代表的なものを例示
C-P25S（新築用）
C-P25H（リフォーム用）

このたびは当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。

注意	● この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。 ● 施工後は必ず試運転を行ってください。 ● お客さまに必ず本書をお渡しください。 お渡しするときは、使用方法をご説明ください。

安全のために守ってください！

便器を安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。
施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

用語の説明

警告 ・・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。

注意 ・・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠ 注意

陶器は割れものです。
●施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。
●施工後に施工段階での破損がないことを確かめてください。
※ 破損部でケガをしたり、漏水により室内浸水の原因になります。
指示実行

止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行ってください。
※ 漏水し、室内浸水の原因になります。
指示実行

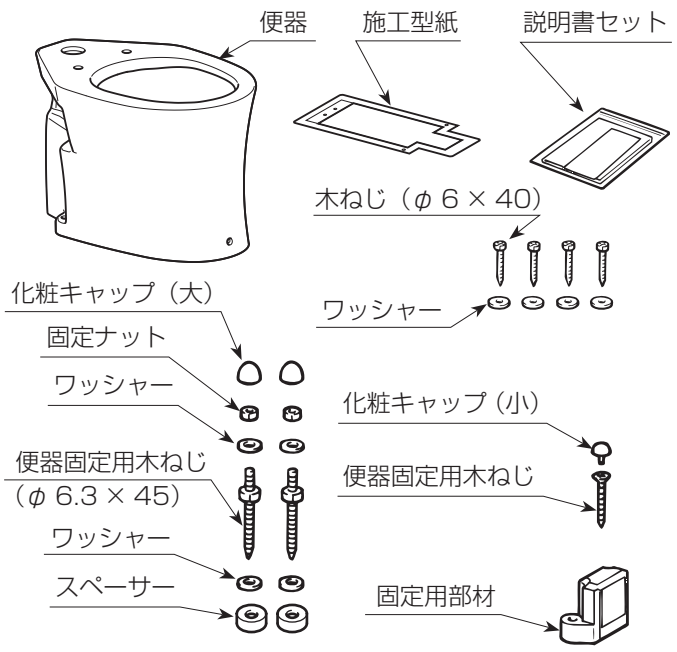
お客さまにお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。
※ 凍結破損で漏水し、室内浸水の原因になります。
指示実行

施工前の注意

●C-P25S、C-P25H それぞれ施工が異なります。
C-P25S：排水芯 255mm 専用便器です。
C-P25H：排水芯 235 ～ 450mm の排水芯可変式便器です。

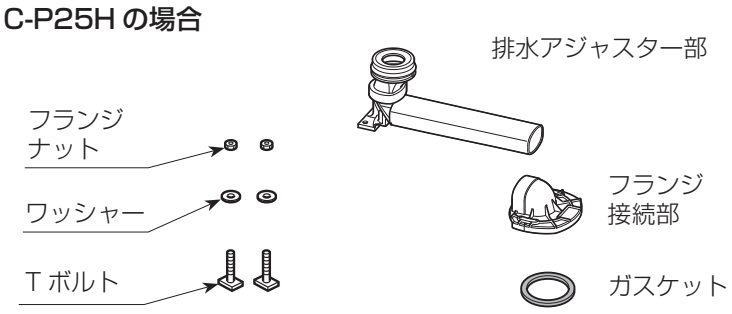
各部のなまえ

部品の確認（梱包内容を確認してください。）



C-P25S の場合

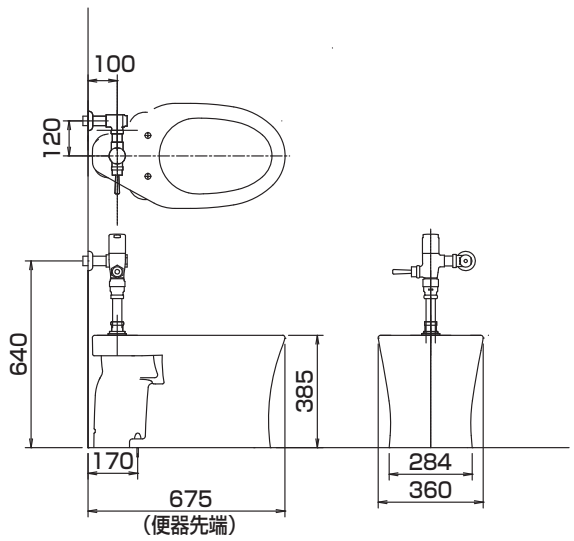
C-P25H の場合



完成図

壁給水の場合

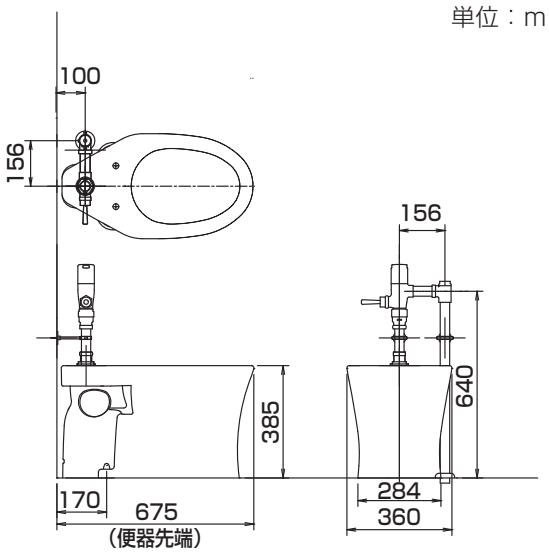
単位：mm



※ 右給水の場合

床給水の場合

単位：mm



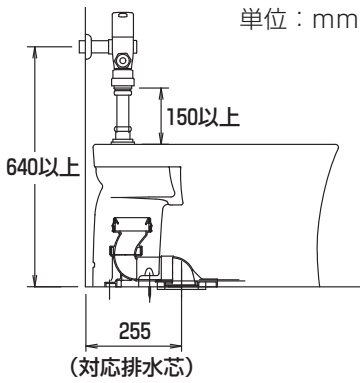
※ 右給水の場合

施工する前に

以下のことを確認し、施工を始めてください。

C-P25S の場合 → 施工方法 A-1

単位：mm

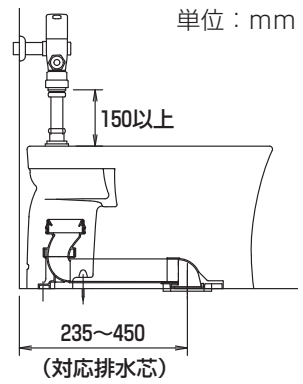


排水芯が255 ± 5mmの位置にあることを確認してください。
範囲を外れる場合は、施工できません。
排水ソケットセット（CF-P15HG,75-3141）を手配し、施工方法 A-2 を参照してください。

※ イラストは、壁給水の場合です。

C-P25H の場合 → 施工方法 A-2

単位：mm



既設便器の排水芯が 235mm ～ 450mm の範囲内であることを確認してください。

※ イラストは、壁給水の場合です。

商品・施工方法についてのお問い合わせは、お客さま相談センターまで　ナビダイヤル　TEL 0570-017-173
受付時間　平日 9:00 ～ 18:00　土・日・祝日 9:00 ～ 17:00（ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く）

施　工　方　法

A-1 C-P25S の場合

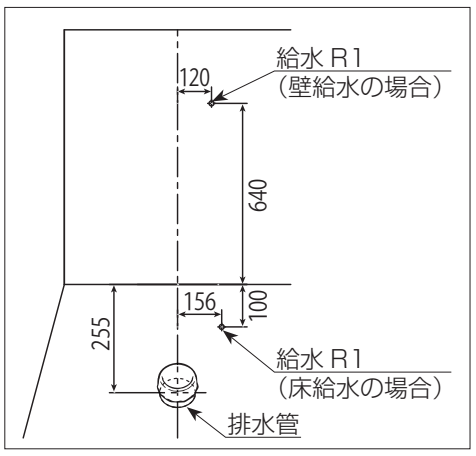
排水芯が 255mm あることを確認してください。
255mm ではない場合、「施工する前に」の「C-P25H の場合」を参照してください。

1. 給排水の位置決めと取出し

給水管、排水管を取り出します。

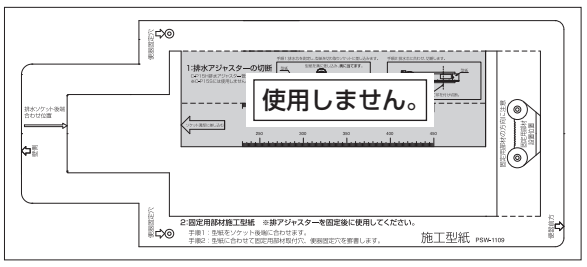
※ 給水管、排水管を施工寸法通りに取り出します。誤って排水管を壁寄りに取り出した場合は、便器と壁が干渉して施工できない恐れがあります。
※ 給水位置は、排水管を中心に左右対称でも設置可能です。

注意 1 参照



2. 施工型紙の切取り

（1）施工型紙の「1. 排水アジャスターの切断」を切り取ります。
※ 切り取った型紙は使用しません。



3. フランジの固定

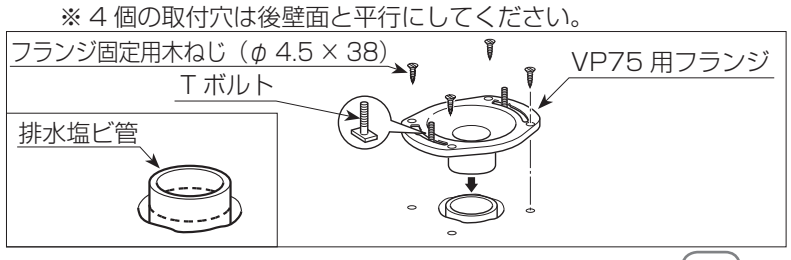
《樹脂フランジの場合》

（1）排水塩ビ管を床と平行に切断します。
VP75,VU75,VP100,VU100：床仕上面　注意 2 参照

(2) VU75,VP100,VU100 の場合は、VP75 用フランジと各サイズのアダプターの密着部をきれいにし、両方に塩ビ管用接着剤を塗って接着します。

(3) VP75 用フランジに T ボルトを組み込み、排水塩ビ管と VP75 用フランジまたは各サイズのアダプターの密着部をきれいにし、両方に塩ビ管用接着剤を塗って接着します。
※ 排水塩ビ管と VP75 用フランジまたは各サイズのアダプターの接着は、確実に行ってください。接着が不十分ですと漏水、漏気発生の原因になります。　注意 1 参照　注意 3 参照

(4) フランジ固定用木ねじで樹脂フランジを床に固定します。床がタイルまたはコンクリートの場合、下穴（径 7.5、深さ 55）あけ、別売の AY ボルト（AY-2）を使用します。
※ 4 個の取付穴は後壁面と平行にしてください。



B へ

《金属フランジの場合》

（1）排水管を床仕上面上 15 ～ 20mm 確保して切断します。
※ フランジの取付けは必ず床仕上面上に行ってください。

注意 2 参照

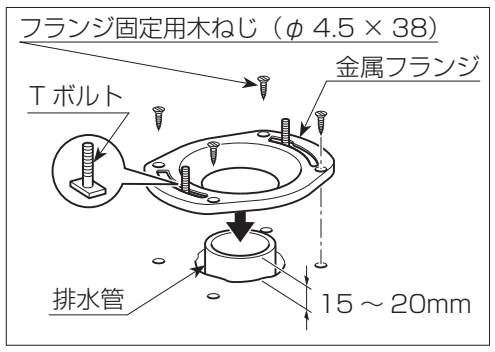
（2）金属フランジのテーパー部が床の中に入るように排水管周囲をはつります。

注意 4 参照

（3）T ボルトを金属フランジの背面から通し、フランジ固定用木ねじで金属フランジを取り付けます。
※ コンクリート床の場合は AY ボルト（AY-2）を別途手配してください。この場合、あらかじめ下穴（径 7.5、深さ 55）をあけてください。
※ 4 個の取付穴は後壁面と平行にしてください。

（4）排水管をテーパー面に沿って亀裂、破損させないようにツバ広げします。
※ 十分ツバ広げできない場合は、シールが不完全になる恐れがありますので、金属フランジと排水管のツバ部をハンダ付けしてください。

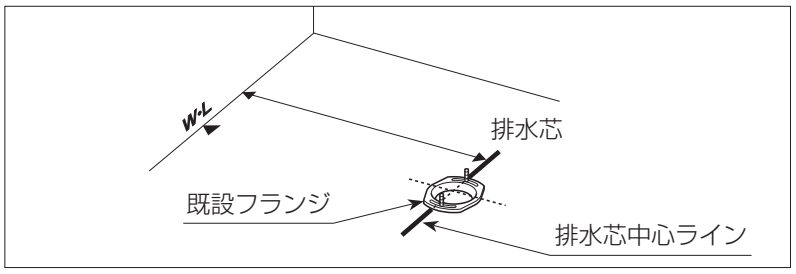
B へ



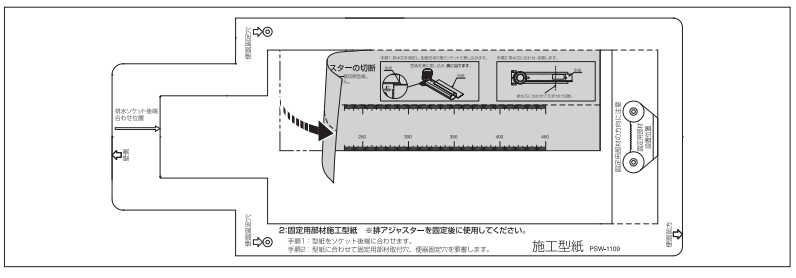
A-2 C-P25H の場合

1. 排水アジャスター部の切断

（1）排水芯中心ラインを引き、後ろの壁から排水芯までを測定します。
※ 便器の位置を決める重要な線です。排水芯中心ラインを必ず引くようにしてください。



（2）右図のように施工型紙のアミカケ部分を切り取ります。

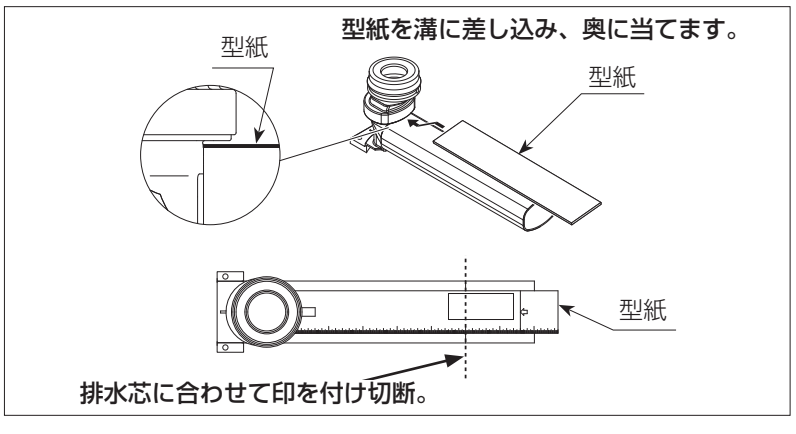


（3）切り取った型紙を排水アジャスター部の溝部に差し込み、測定した排水芯長さで切断します。

注意 5 参照

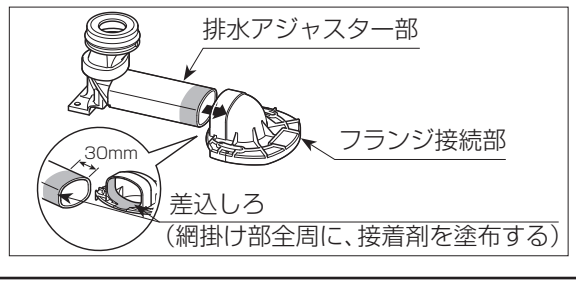
※ 排水アジャスター部の切断を間違えると、便器の施工ができない恐れがあります。

注意 6 参照



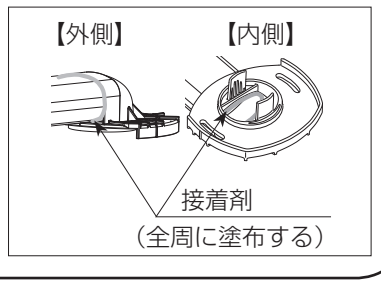
2. 排水アジャスター部・フランジ接続部の接着

（1）排水アジャスター部とフランジ接続部の差込しろ（網掛け部分）に接着剤を 2、3 回重ね塗りします。



（2）排水アジャスター部をフランジ接続部の奥まで差し込み、外側内側両方の端部に接着剤を塗ります。

注意 7 参照　B へ



注 意 1

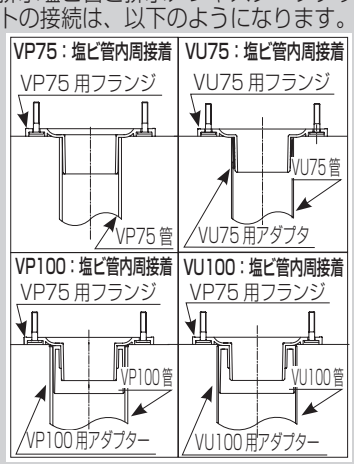
● 便器を取り付けるまで、異物が混入しないように給水管にはプラグ、排水管にはビニール袋などでカバーをしてください。
● 給水管はぐらつきのないように、しっかりと固定してください。

注 意 2

排水管は、切断面が床と平行になるように切断してください。
※ 切断位置が正確でないと漏水、臭気発生の原因になります。

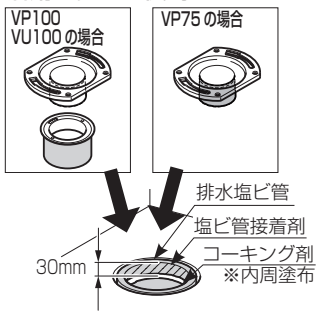
参考 1

排水塩ビ管と排水アジャスターソケットの接続は、以下のようになります。



注 意 3

フランジまたはアダプターの接着時に、すき間、ガタがある場合は、塩ビ管接着剤とコーキング剤を併用してください。
※ コーキング剤は下図のように塩ビ管内周に塗布します。（VU75 の場合は不要）
※ すき間が大きいときは塩ビ管接着剤を多めに使用してください。



注 意 4

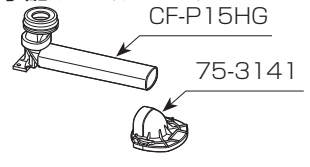
金属フランジの取付けは、必ず床仕上面に行ってください。

注 意 5

● 排水アジャスター部やフランジ接続部を誤って落とさない様にしてください。
※ 部材の損傷部から漏水する恐れがあります。
● 切断後、フランジ接続部を再度差し込んで排水アジャスター部の長さを確認してください。
※ 差込みが不十分ですと便器の取付位置がずれ、施工不良の原因になります。
● 切断は排水アジャスター部に対して垂直に行ってください。
※ 斜めに切断すると、漏水・臭気発生の原因になります。
● 切断後、排水アジャスター部にバリなどが残らないようしてください。
※ 漏水する恐れがあります。

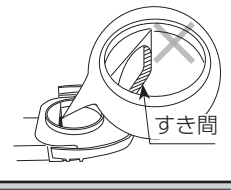
注 意 6

排水アジャスター部の切断・接着を間違えた場合には、以下の品番で手配してください。



注 意 7

排水アジャスター部とフランジ接続部の接着は、両方に確実に塗布してください。
フランジ接続部裏側から見て排水アジャスター部が奥までピッタリ差し込まれていることを確認してください。
※ 接着が不十分ですと漏水、臭気発生の原因になります。

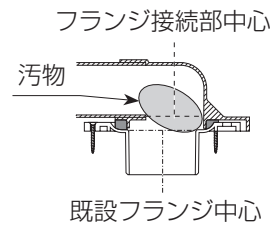


注 意 8

既設フランジのボルト・ナットなどが腐食している場合は、同梱のTボルト、フランジナット、ワッシャーをご使用ください。

注 意 9

既設フランジにフランジ接続部を取り付ける際は、既設フランジ中心とフランジ接続部の中心を合わせてください。
フランジ接続部がずれて施工されると、詰まりが発生する可能性があります。



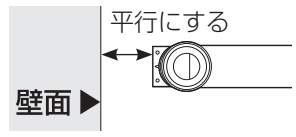
注 意 10

- 排水アジャスターソケットを床へ固定する際には、床面の傾きや不陸にご注意ください。排水アジャスターソケットを逆勾配で設置すると、洗浄不良や詰まりの原因となります。
- フランジナットで固定の際は、締め過ぎないように様にしてください。

※ 既設フランジが破損し漏水の恐れがあります。

注 意 11

排水アジャスターソケットは必ず後ろ壁面に対して平行に取り付けてください。
斜めに取り付けると便器が斜めに取り付きます。



注 意 12

ガスケットの接着面は、フランジ接続部、既設フランジ部ともにゴミや水分の付着がないようきれいにしてください。
※ 汚れていると密着不良により漏水の原因になります。

注 意 13

固定用部材に切粉などのゴミが付着しないようにしてください。付着している場合はきれいに取り除いてください。
※ 便器の固定不良の原因になります。

注 意 14

便器台座を排水アジャスターソケットの上に載せないでください。
※ 排水アジャスターソケットが破損したり、排水ゴムジョイントを傷めて漏水の恐れがあります。

注 意 15

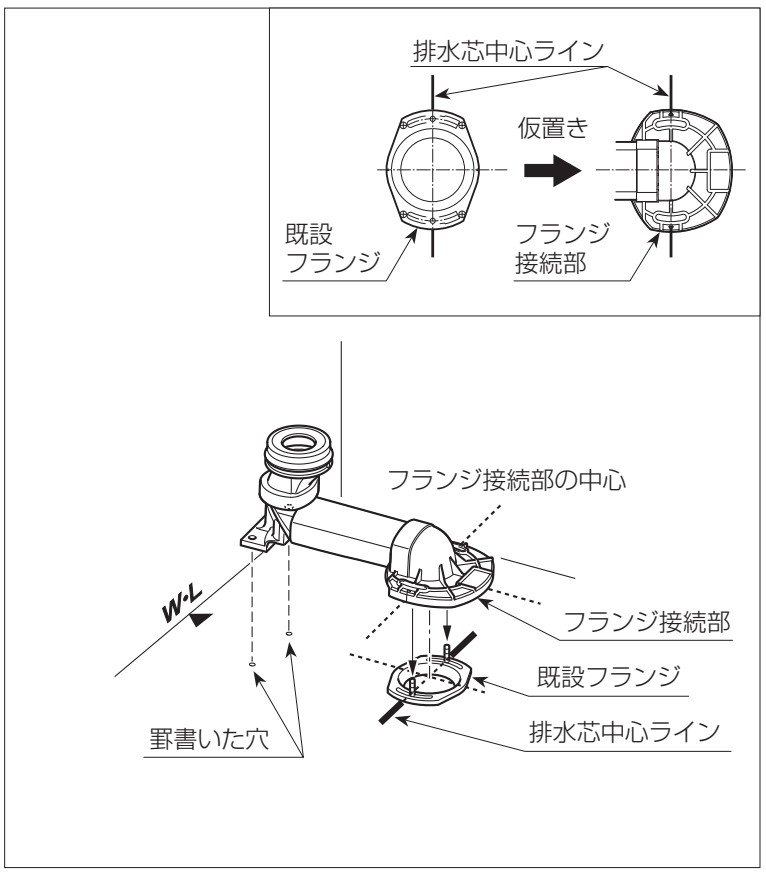
陶器に対するねじは締め過ぎないようにしてください。
※ 陶器が割れる恐れがあります。

B

1. 排水アジャスターソケットの位置決め・固定

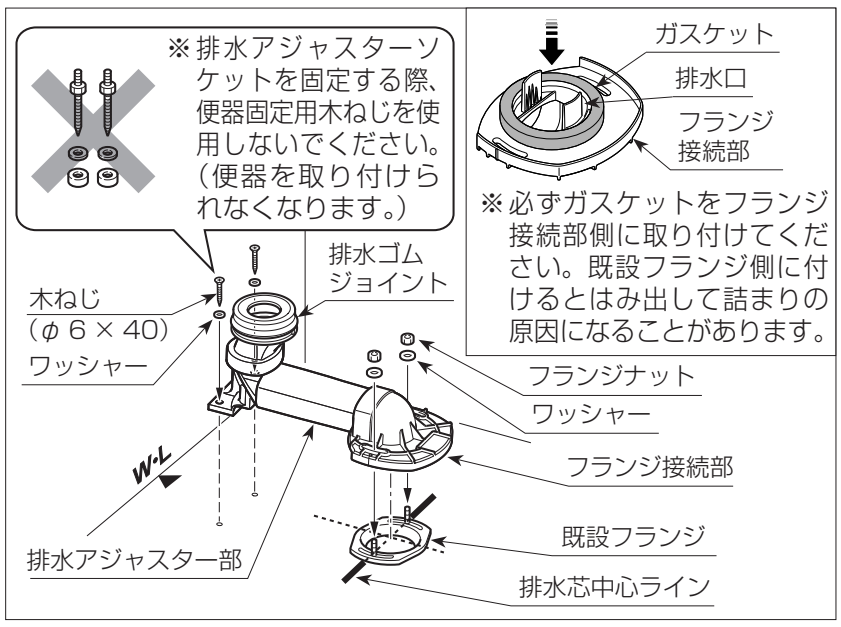
(1) フランジ接続部の中心を**排水芯中心ラインに合わせて**仮置きし、ねじ穴位置を罫書き、下穴をあけます。

〈排水アジャスターソケットの位置決め〉



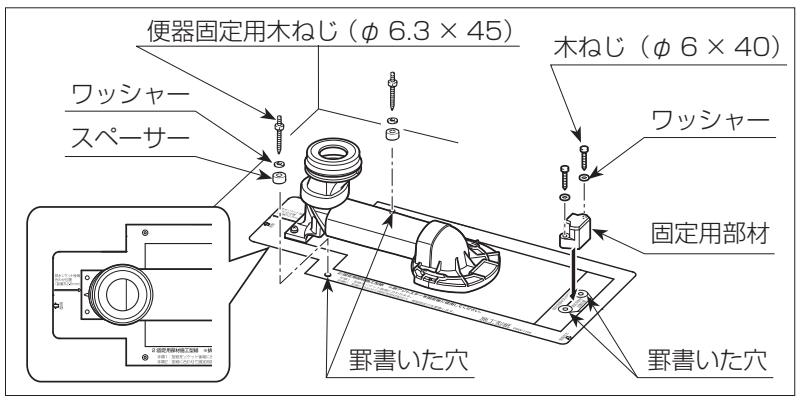
(2) フランジ接続部の排水口にガスケットを付け、フランジ接続部の中心を排水芯中心ラインに合わせます。
(3) フランジ接続部を、ワッシャーとフランジナットで既設フランジに固定します。 **注意 8 参照**
(4) 排水アジャスターソケットをワッシャーと木ねじで固定します。
床がタイルまたはコンクリートの場合、下穴（径 11、深さ 55）をあけ、AY ボルト（AY-23W）を使用します。
注意 9 参照 **注意 10 参照** **注意 11 参照** **注意 12 参照**
(5) 排水ゴムジョイントから水を流し、接続部から漏水が無いことを確認します。

〈排水アジャスターソケットの固定〉



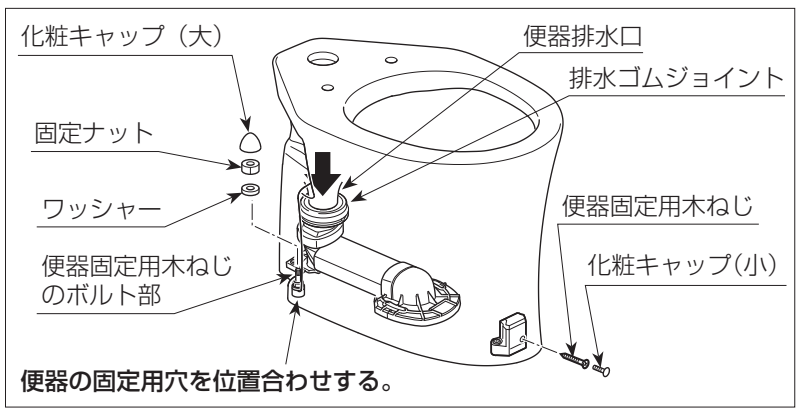
2. 便器固定用木ねじ・固定用部材の位置決め・固定

(1)「2. 固定用部材施工型紙」を排水アジャスターソケット後端に合わせ、固定用部材取付穴・便器固定用木ねじ穴を罫書き、下穴をあけます。
床がタイルまたはコンクリートの場合、下穴（径 11、深さ 55）をあけ、AY ボルト（AY-86D）を使用します。
(2) 固定用部材をワッシャーと木ねじで固定します。 **注意 13 参照**
(3) 便器固定用木ねじにワッシャーとスペーサーを挟んで固定します。



3. 便器の取付け

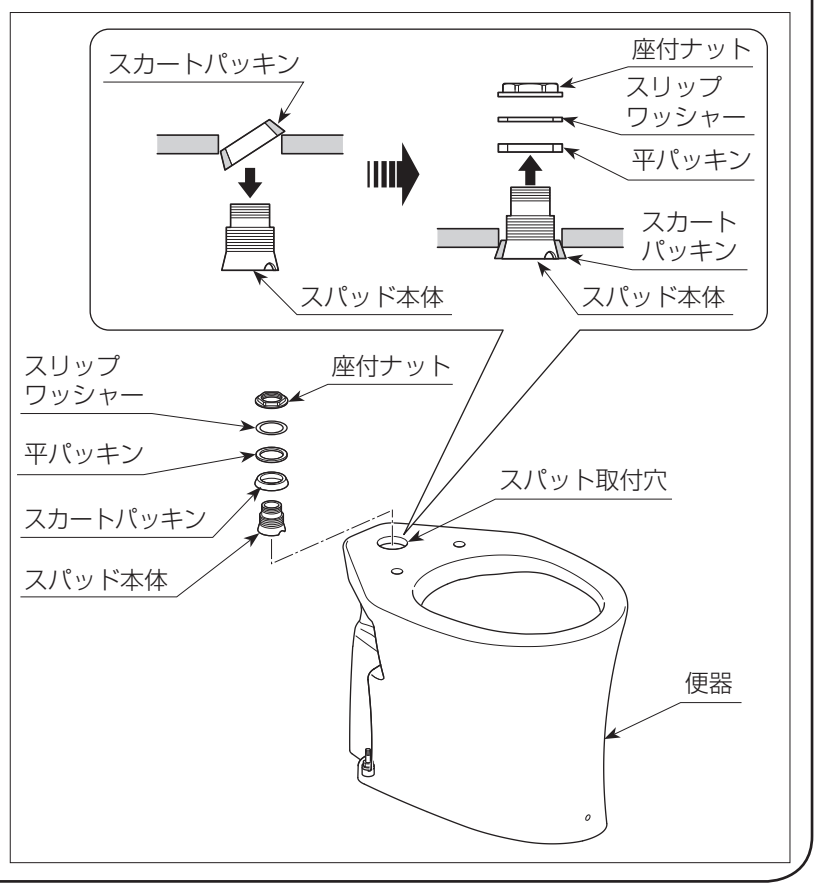
(1) 便器固定用木ねじのボルト部に便器の固定用穴を位置合わせしながら、便器排水口を排水ゴムジョイントに差し込み、固定ナットで便器を固定し、化粧キャップ（大）を取り付けます。 **注意 14 参照**
(2) 便器前方から便器固定用木ねじで固定し、化粧キャップ（小）を取り付けます。 **注意 15 参照**



4. スパッドの取付け

(1) 別途手配の径違スパッド (CF-103BB) のスパッド本体を便器のスパッド取付穴に入れ、スカートパッキンをスパッド本体にかぶせます。

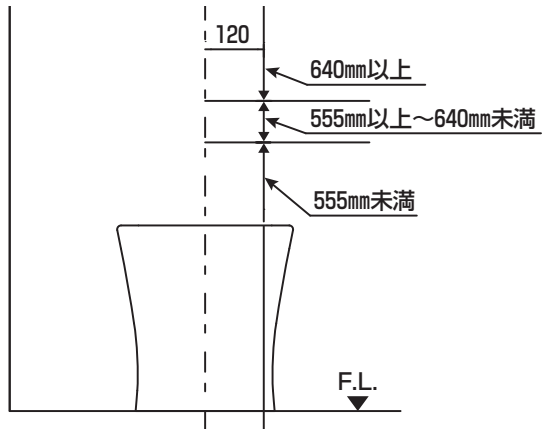
(2) スカートパッキンを挟み込みながらスパッド本体を持ち上げ、平パッキン、スリップワッシャー、座付ナットの順に入れ、締め付けます。

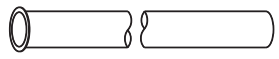


5. 給水位置・部材の確認（C-P25H の場合のみ必要となります。）

※ 下図の給水位置により、別手配が必要となる場合があります。
　対応表に従って手配してください。
※ 既存の給水管から便器中心までの寸法が 120mm 以上確保されていることを確認してください。
　120mm 未満の場合は、仮合わせをして、給水管と便器が干渉しないことを確認後、施工してください。

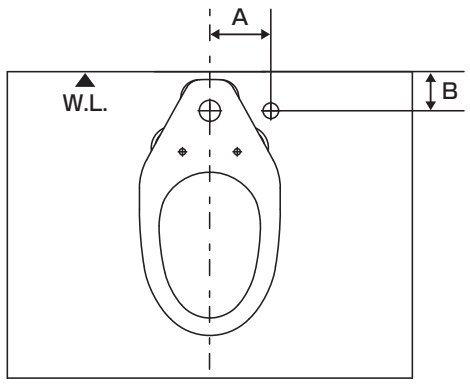
壁給水の場合

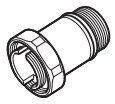
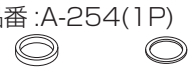


給水高さ	手配品番	
	給水エルボ	洗浄管
640mm 以上	不要	
555mm 以上 ～ 640 mm未満	品番：A-7179	品番：CF-110-24 
555mm 未満	品番：A-7179(110) ☆	不要

※ 洗浄管は、中水仕様の場合、品番が CF-110-24-CS になります。
※ 給水位置は、便器を中心に左右対称でも対応可能です。
※ ☆は特注品です。
※ 上記以外の給水位置の場合は、給水を立ち上げ直してください。

床給水の場合



給水位置		手配品番	
A	B	芯間距離変更ユニオン	偏芯洗浄管
120	75	CW 分岐なし品番 A-9590 CW 分岐あり品番 K-T001  図は A-9590	品番：CF-110-8 継目 注意 16 参照 品番 :A-254(1P)  パッキン　スリップワッシャー（白）
156	100	不要	
180	100	CW 分岐なし品番 A-9590(180) CW 分岐あり品番 K-T001(180)	不要

※ 偏芯洗浄管は、中水仕様の場合、品番が CF-110-8-CS になります。
※ 給水位置は、便器を中心に左右対称でも対応可能です。
※ 上記以外の給水位置の場合は、給水を立ち上げ直してください。

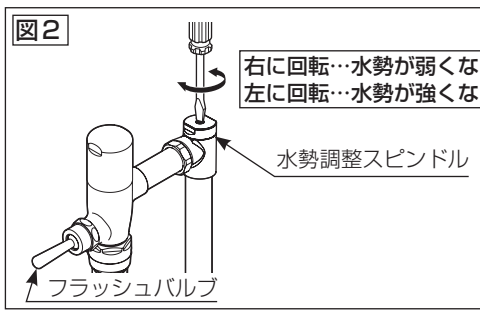
6. フラッシュバルブの取付け・洗浄水量の調節・水勢の確認

フラッシュバルブに同梱されている施工説明書に従って、フラッシュバルブを取り付けます。 注意 17 参照

《水勢の確認》

(1) 図2 の状態でドライバーを右に回転させて、水勢調整スピンドルが閉まっていることを確認します。
(2) ハンドル操作を繰り返しながら、水勢調整スピンドルを開けます。

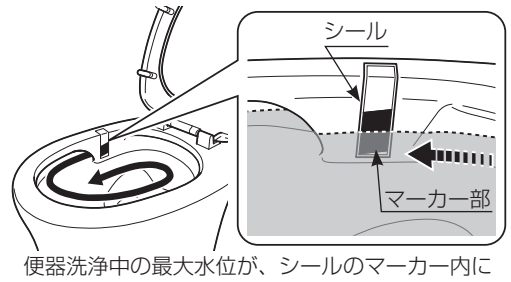
図2



※ 一度ハンドルを押しそのまま押しつづけると、水は止まってしまいます。数回ハンドル操作してください。

(3) 使用場所の水圧、配管条件により水勢が変化しますので、図3 を参考に、水勢を確認してください。

図3



便器洗浄中の最大水位が、シールのマーカー内にあることを確認してください。

※ 水勢確認時は、他の器具と同時使用しないでください。
※ 水勢の確認が不十分な場合、洗浄不良、洗浄水の飛び出しの原因になります。

※ 最大水位が 図3 のマーカー部を

超える場合 ⇒ 水位がマーカー内に入るように水勢調整スピンドルを回して調整してください。

達しない場合 ➡ 現場の給水圧力を確認してください。

※ 給水圧力が 0.07MPa（流動圧）以上、0.1MPa（流動圧）未満の場合
　⇒ 洗浄水量を 6L に設定してご使用ください。
※ 給水圧力が 0.05MPa（流動圧）以上、0.07MPa（流動圧）未満の場合
　⇒ 現場の水圧不足が考えられます。低圧フラッシュバルブに器具交換し、水勢調整スピンドルを全開にしてご使用ください。

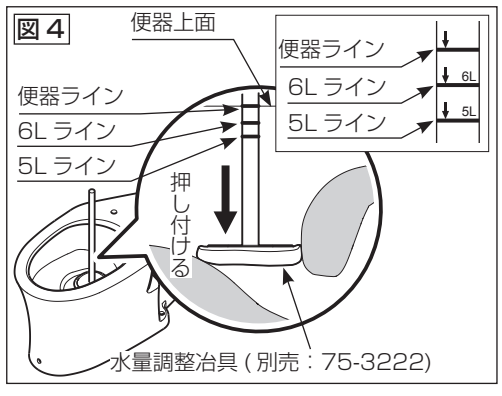
(4) 水勢確認後、シールをはがします。 参考 2 参照

《洗浄水量の確認方法》

別売りの水量調整治具 (75-3222) を使用することで、正確な水量に調整することができます。

(1) 便器内の水をすべて抜きます。
(2) 水量調整治具を、図4 のように便器上面と治具の便器ラインにくるように、便器のトラップ入口をふさぐように押し付けます。
(3) 洗浄動作を行い、水位が 5L ラインになるように調整します。

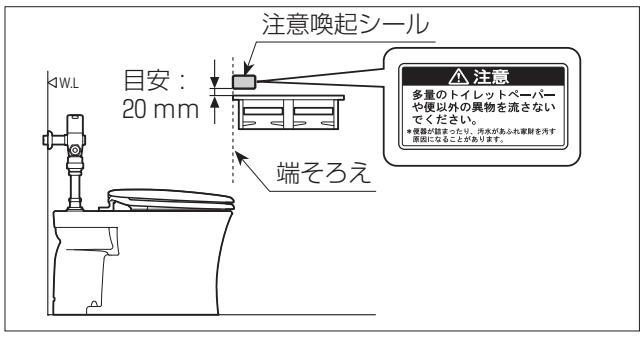
図4



※ 洗浄水量を 6L でご使用の場合は、水位が 6L ラインになるように調整します。 注意 18 参照

7. 施工後の確認

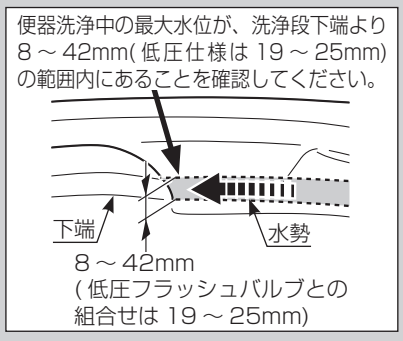
(1) フラッシュバルブを操作して便器鉢内を洗浄し、各接続部に漏水がなく、鉢内洗浄が良好であることを確認します。
　※ 排水接続部の漏水点検は、数回繰り返して水を流さないと確認が困難な場合があります。
(2) 鉢内洗浄の良否は、長さ 760 mmのトイレットペーパーを丸めたものを 7 個入れ、1 回の操作で排出できることを確認します。
(3) 施工説明書に同梱の注意喚起シールを紙巻器上の壁面に貼ります。
　注意 19 参照



注 意 16
● 施工時は継目を上にしてください。

注 意 17
● フラッシュバルブを取り付ける前に、必ず給水管内のゴミ・砂などを完全に洗い流してください。
● 各接続部は、漏水がないように確実に接続してください。

参考 2
シールをはがした後に、再調整を行う場合は、便器洗浄中の最大水位が、洗浄段下端より 8 ～ 42mm の範囲内にあることを確認してください。



注 意 18
● 自治体の下水道条例で洗浄水量に規程がある場合は規定洗浄水量以上に調整してください。

注 意 19
● 長期間使用した便器を交換する場合は、排水管内に汚れや異物・尿石が堆積していることがありますので、排水管内の清掃をお勧めします。
● 排水管の曲がりが多い場合や、小曲継手の場合、排水管径・勾配が適切でない場合は、洗浄不良・詰まり・騒音・封水切れ・他器具への影響が生じることがありますので避けてください。
● 汚物・紙が流れない場合は、水量を増やしてください。